

事業報告書

| | | | |
|-----|-----------|-----|------|
| 報告日 | 令和元年5月11日 | 担当者 | 鈴木弘子 |
|-----|-----------|-----|------|

| | | | | | |
|-------------|--|-------|---|------|-----------------|
| 事業名 | 英会話講座 | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 東京オリンピックを控え、おもてなし英語が話題になっている。簡単な日常英会話を体験することにより、英会話学習に積極的にチャレンジしようとするきっかけづくりをする。 | | | | |
| 日時 | 平成31年5月2日(木)・4日(土)・6日(月) 13時～15時 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 集会室大 | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 内藤 真由美さん (May English代表) | | | | |
| 報償額 | 20,000円 | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | |
| 対象者 | 15歳以上で英語の基礎学力のある方 | 定員数 | 16名 | 実績人数 | 15名 (申込み17名) |
| 材料費 | 300円 | 材料費用途 | テキスト代金 | | |
| 概要 | <p>2020年開催のオリンピックを意識し、外国人との交流の際に国により文化の違いがあること、そして日本独特の文化について外国人がそれをどのように受け止めるかなどを学ぶ。</p> <p>「アイコンタクト・笑顔・姿勢」がコミュニケーションツールとしてはとても重要であり、外国人と会話の際もそれを意識し、コミュニケーションとることが大切という話がある。その3点を基本に、様々な事例で英語でのロールプレイングを行う。</p> | | | | |
| 成果 | <p>17名の申込みがあったが、欠席が2名出て、実際は15人の参加となる。</p> <p>外国の文化の違い等の話の際は参加者の体験談がでたりして、場が和む。いくつかの事例に従ってお互いに英語でロールプレイングを行うが日本語で会話が盛り上がりながらも、色々な言い回しを講師に質問し、それを皆で共有するという形が繰り返されていた。</p> <p>参加者の多数が「良かった」「楽しかった」と、感想を述べており、続けて英語の勉強をしたいとの声が多聞かれた。</p> | | | | |
| 自己評価 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">Aa</div> | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <p>連休に設定し、ウェブ申込みにしたことで若年層の参加も期待したのだが、やはり、年代層は高く、殆どが電話や窓口での申込みだった。参加者からは充実していたとの感想があり、結果は良かったと思うが、様々な年代に公民館を知ってもらい、地域でのつながりを作る機会づくりのためにも若年層が参加しやすいような講座内容を考えていきたい。</p> | | | | |

その他

テキスト代金テキスト代金
300円×17名=5100円

添付 ・テキスト代金領収書
・参加者アンケート
・託児打ち合わせ票

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

令和元年度

資料1-2

事業報告書

| | | | |
|-----|------------|-----|------|
| 報告日 | 令和元年 6月 1日 | 担当者 | 鈴木弘子 |
|-----|------------|-----|------|

| | | | | | | |
|-------------|---|-------|---|------|-----|----|
| 事業名 | ピラティス | | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | | |
| 目標・目的 | 筋肉から全身のバランスをとる方法を知り、健康な体作りを目指し体を動かす楽しさを体感する。地域の人と一緒にいることで交流のきっかけ作りの場とする。 | | | | | |
| 日時 | 令和年 5月 8日・5月 15日・5月 29日 (水) | | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 講義室 | | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 竹内サチ子 (マットピラティスインストラクター・健康管理士・介護予防運動指導員) | | | | | |
| 報償額 | 15,000円 (詳細裏面) | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | | |
| 対象者 | 一般 | 定員数 | 16名 | 実績人数 | 13名 | |
| 材料費 | | 材料費用途 | (収支報告裏面) | | | |
| 概要 | 1日目 正しい姿勢をとる、ボールを使用し身体の各所の筋肉をほぐす、ストローを使いながら胸式呼吸を覚える等を行いコアの動かし方など体の基本的な動きを行う。 2日目 正しい姿勢、呼吸、コアの動きを意識しながら体をほぐし、エクササイズをする。 3日目 ストレッチを行った後の体の変化を感じる。呼吸、姿勢、コアを意識して、エクササイズを行う。 | | | | | |
| 成果 | ピラティスは大きな体の動きはあまりないのだが、胸呼吸をしながら下腹部等の筋肉をひきしめ、そしてエクササイズを行っていく。 ピラティスボールを使用してのストレッチは効果がすぐに見られ、参加者皆、驚きの声をあげていた。コアの動きを感じるためにストローを使用して呼吸の方法のコツを覚えたり、ストレッチボールを使い筋肉の動きを具体的に感じたりする。地味な動きではあるが、ひとつひとつの動きは確実に筋肉に届いているのか終了後、体が軽くなった、気持ちが良いなどの感想があり、続けて行いたいという意見が多かった。 | | | | | |
| 自己評価 | <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">Aa</td> </tr> </table> | | | | | Aa |
| Aa | | | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページからの申込み受付を行うが二重申込みがあり、また、当日キャンセルもありで参加人数が減ってしまった。今後もホームページからの申し込みには不手際がないように気をつけたい。 ・対象年齢を40歳位まで、午前中の実施、が良かったという声が多くあった。子育て中の年代は子どもが学校や幼稚園にいてる時間で参加しやすいということだった。 ・乳幼児の母親は体の動かし方に偏りがあり、本人も気づかずに心身共に不調をきたしていることが多いので、公民館でこのような事業を行うことは、子育て中の母親のリフレッシュのためにとてもよいことなので、今後も続けてほしいと講師からも感想があった。 ・体を動かして得られた爽快感と共に、託児つきの事業でわずかな時間でも一人で過ごせる時間を過ごせた解放感もあったのではないかと思います。いろいろな子育て支援があるが、本事業のような形の子育て支援もあるのではないかと思います。 | | | | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

事業報告書

報告日

令和1年5月23日

担当者

山田 重乃

| | | | | | |
|-------------|--|-------|---|------|--------------|
| 事業名 | かがわ健康ウォーク「水彩スケッチ散歩」 | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 健康ウォークのアプローチのしかたを変え、水彩スケッチを行いながらウォーキングの楽しさを体験する。 水彩画をきつかに身近で手頃な運動として歩くことを習慣化できることを目標に開催。 | | | | |
| 日時 | ①5月10日（金）9時30分～15時 ②5月17日（金）8時45分～16時 | | | | |
| 場所・会場 | ①香川公民館集会室大 香川駅周辺 ②神奈川県立観音崎公園（横須賀） | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 小林信幸さん（香川公民館館報「こもれび」編集委員） 県立観音崎フィールドレンジャーガイドスタッフ 3名 | | | | |
| 報償額 | ¥15,000 （詳細裏面） | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡） | | |
| 対象者 | 水彩画初心者 | 定員数 | 15名 | 実績人数 | ①15名 ②14名 |
| 材料費 | 500円 （材料用意できる方はなし） | 材料費用途 | 水筆 スケッチブック 携帯絵具 ペン （収支裏面） | | |
| 概要 | <p>【1日目】午前中の座学では、手順、個別（空・樹木・建築物・山・水辺）の描き方、着色技術を学んだ。午後から香川駅周辺に行き各自スケッチし、公民館に戻り発表会を行い15時解散した。</p> <p>【2日目】8時45分公民館集合～9時出発（市マイクロバス使用）～10時10分観音崎公園着。10時30分より観音崎フィールドレンジャーさん3名による公園ガイドを12時30分まで行う。日本初の洋式灯台や大砲跡、手彫りトンネル、海食洞穴、浦賀水道を歩き交う大型船等を見学、散策した。午後からは約2時間、各自描きたい場所を選びスケッチを行い、3時公園を出発し帰路の車中で作品と感想を発表し合った。16時30分公民館到着、解散。</p> | | | | |
| 成果 | ・健康ウォークの切り口を変えた水彩スケッチ散歩で、手頃な運動習慣としての歩く楽しさと水彩の楽しさを体験することができた。 | | | | |
| 自己評価 | ・マイクロを使用することで、個人では遠方のため訪れる機会の少ない東京湾防衛の歴史文化財のある県立公園を体験、紹介することができ参加者も満足度が高いと考える。 | | | | |
| Ab | | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | ・観音崎公園では午前中ガイドさんによるウォークにしたため、スケッチする時間が短く感じた方がいたようだが、2日間講座を総合的に見て「歩く」「スケッチする」の配分は妥当であると考えられる。 ・時間の関係でバスの中での作品鑑賞と感想の発表となったが、参加者同士の交流を高めるならプラス1日の3日講座にし最終日を作品鑑賞と意見交換日を設ければ、さらに新しい展開が望めたと考える。次回開催するようであれば講師と相談し検討したい。 | | | | |

その他

【材料費収支】

(収入) 500円×11名=5,500円

(支出) 5,184円 (水筆 携帯用絵具 スケッチブック ペン)

(残) 316円 (市募金に寄付)

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

事業報告書

| | | | |
|-----|----------|-----|-------|
| 報告日 | 令和1年6月4日 | 担当者 | 山田 重乃 |
|-----|----------|-----|-------|

| | | | | | |
|-------------|---|-------|---|------|-----|
| 事業名 | 手づくり布ぞうり(講師養成講座 ～技術向上フォローアップ～) | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 昔ながらのぞうりを古浴衣で作りで、日本文化継承と古布のリサイクルを学ぶ。と、同時に26年度「布ぞうり講師養成講座」参加者の指導者としてのステップアップと、自分たちの学びを地域の貢献する意識を高める目的で開催。 | | | | |
| 日時 | 令和元年5月31日(金) 6月2日(日) いずれも9時30分～12時30分 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 集会室大 | | | | |
| 講師養成者兼講師 | 布ぞうり講師団体 「ラ・トワール」 片野 順子さん 竹田 由美子さん 富田 久美子さん 松尾 智恵子さん 菅沼 松江さん 吉田 紀子さん | | | | |
| 報償額 | ¥21,000 | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | |
| 対象者 | 一般 | 定員数 | 12名 | 実績人数 | 15名 |
| 材料費 | ¥1,000 | 材料費用途 | 古浴衣 紅白布 芯(10mm 8mm) (収支報告裏面) | | |
| 概要 | 1日目: 6つのグループに分け、工程ごとに(布さき→芯かけ→鼻巻→編み→横鼻緒付け→かかと処理→前鼻緒たて)区切り作業を進め1足完成させた。1足目の鼻緒は事前に準備して出来上がった物を使用した。 2日目: 鼻緒づくりからはじめ、完成後の進捗は全員揃えず、各班の講師にお任せし、2足目を完成させた。最後に参加者全員に感想を発表し全員で清掃し解散とした。 | | | | |
| 成果 | ・2日間2足作ることによって習得度が高く、さらに木製編み機の代替品として「針金ハンガー簡易編み機」の紹介を実演をまじえ行ったので、自宅で編んでみようという方が多くいた。満足度は高いと考える。 | | | | |
| 自己評価 | Aa ・日本文化と古布リサイクルを学ぶ機会となった。参加者のひとりの方は終活中で、古布の処分できひ活用したいという声も聞くこともできた。 ・公民館講座(布ぞうり講師養成講座)から発足した講師団体の、指導経験を重ね今回で5回目の講座となる。 毎回、課題や提案が活発に出され、さらにブラッシュアップした講座のために勉強会を行うことになった。自分たちの学びをさらに地域に還元してくれる意識が回を重ねるごとに高くなってきている。公民館としても講師の方たちが社会教育活動への参加を深めるためにサポートしていきたい。 | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | ・工程ごとの説明はするが、作業が細かいため実際はマンツーマン指導になっている現状は改善できていない。プロジェクター等を使用し、全員が大きい画面での一斉指導ができれば効率的に講座進行ができ募集人数も増やせる。この講座を継続していくなら、指導方法の工夫が必要である。 ・講座参加者の中から、講師協力者につなげていくことが、地域交流や世代間交流、講座向上に効果があるので、新しい人材をさらに増やし活性化していきたい。 ・編み機を毎回寒川町文化財学習センターからお借りしている(年2～3回)。継続事業として続けていくようなら寒川の職員含め勤務効率化の面でも備品として揃えていく方向で検討したい。 | | | | |

その他

【編み機20台】
寒川町役場生涯学習センターから借用
令和元年5月24日（金）～6月4日（火）

【材料費】
1,000円×15名=15,000円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

令和元年度

資料1-5

事業報告書

| | | | |
|-----|-----------|-----|-------|
| 報告日 | 令和1年6月14日 | 担当者 | 山田 重乃 |
|-----|-----------|-----|-------|

| | | | | | |
|-------------|---|-------|---|------|---------------------------|
| 事業名 | 親子でのびのびリトミック | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 1. 家庭教育支援関連事業 | | | | |
| 目標・目的 | リズム、メロディーを身体全体を使い表現し、自由な感性と表現力を育てることを目的とする。音楽の力で心身の調和、発展を図りさらには母親のリフレッシュと親子のスキンシップを図る。さらに、保護者同士の交流の場活の提供。 | | | | |
| 日時 | 令和元年6月7日（金） 14日（金） いずれも10時～11時30分 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 講義室 | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 久保恭子さん（保育士 日本児童青少年演劇協会会員 リトミック講師） | | | | |
| 報償額 | ¥20,000 (詳細裏面) | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | |
| 対象者 | 1歳～4歳までの親子 | 定員数 | 10組 | 実績人数 | 6月7日 9組18名 6月14日 5組10名 |
| 材料費 | ----- | 材料費用途 | (収支報告裏面) | | |
| 概要 | <p>年齢層（1～2歳児）にばらつきがなく進行しやすい形で開催。転倒防止のためと素足の感覚を養うために大人を含め全員裸足での講座となった。</p> <p>幼児の特性や集中時間など考慮し、子どもが飽きないような内容で展開。</p> <p>楽器（カスタネット）や歩行スピード、手ぶり、動物の鳴き声等で音符カードと合わせて音の長さやリズムを体感した。</p> <p>また、ピアノや講師の歌声、CD等で手遊びやダンスを楽しみ、カラフルな布遊び、輪っか遊びも盛り込んだ。クールダウン時に輪になり母親から感想を発表し合い、講師がそれに回答するかたちで講座を終了した。</p> <p style="text-align: right;">(講座内容裏面詳細)</p> | | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> 聴覚だけでなく、身体と視覚（音符カード・スカーフ）で音楽を表現する楽しさを経験できた。「生演奏（ピアノ）が初めてで興味を持ったようだ」「自宅が2階なので走り回れない。ここで自由におもいっきり走っていた」と声がきけ、子どもの自由な感性と表現力の向上に成果があった。 | | | | |
| 自己評価 | <ul style="list-style-type: none"> 短時間だが母親が真剣に子どもと向かい合う姿が窺えた。親子のスキンシップの場の提供ができた。 | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <ul style="list-style-type: none"> 初めての場所、知らない人ばかりの空間では1～2歳代では、講座に集中することは難しい。月2回のみの単発講座ならば、年齢をもう少し上げての対象にしたほうが成果はあると考える。定期開催の同メンバーで行うことができれば、講座の成果はさらに出せると考える。次回開催するようであるなら対象年齢や講座回数を検討する必要がある。 キャンセル待ちもお断りした方がいたなか、無断欠席やお友達同士での複数組での取消があったため、参加人数が定員を満たさなかったのが残念であった。幼児の親子事業は定員より2～3組多めに募集する必要があると考える。 フリースペースと解釈している保護者がいて何度も部屋の出入りを行い、講座進行に影響が出る場面があった。講座前に出入り自由でない講座であることを伝える必要があった。 | | | | |

Bb

その他

【内容詳細】

6月7日（金）

公民館挨拶と講師紹介

- ①（車座）点呼兼ね楽器（カスタネット）を各人に渡す。
- ②（車座）カスタネットを使いリズムとり。
- ③（車座）音符カードで八分音符、四分音符、二分音符、全音符の音の長さを動物の鳴き声に置き換え体感。同時にカスタネットを鳴らし視覚、言葉、楽器の3点でリズムを学ぶ。（カスタネット回収）
- ④（立位）ピアノ演奏に合わせて、歩行、ジャンプ、拍手。出会いゲーム（自己紹介ゲーム）で交流。
- ⑤（車座）音楽（曲「大型バス」）に合わせて上半身を動かす。手遊び。
- ⑥（立位）あんぱんまん体操
- ⑦（車座）手あそび「きゃべつのなかから」
- ⑧（立位）手あそび「ちょうちょ」
- ⑨（車座）講師の歌に合わせて各組1枚スカーフ遊び。
- ⑩（立位）ダンス「ミッキーマウス体操」
- ⑪（車座）クールダウン

6月14日（金）

- ①（車座）点呼兼ね（カスタネット）を各人に渡す。
- ②（車座）カスタネットを使いリズムをとる。
- ③（車座）音符カード
- ④（立位）ピアノ演奏に合わせて、歩行、ジャンプ、拍手。
- ⑤（立位）輪っか遊び
- ⑥（車座）音楽（曲「大型バス」「あんぱんまん」）に合わせて上半身を動かす。手遊び。
- ⑦（立位）さんさん体操（CD）
- ⑧（車座）手遊び 指あそび
- ⑨（自由）各々自由にスカーフ遊び
- ⑩（立位）ダンス「ミッキーマウス体操」
- ⑪（車座）2回を通じての感想を母親が発表し、講師が各々に返答。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

事業報告書

| | | | |
|-----|-----------|-----|------|
| 報告日 | 令和1年6月13日 | 担当者 | 田端 洋 |
|-----|-----------|-----|------|

| | | | | | |
|-------------|---|-------|---|------|-----|
| 事業名 | 庭木の剪定教室 ～我が家の庭から街づくり～ | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 庭木のある風景は、見る者にとって心に潤いをもたらすとともに街並みに暖かさをもたらします。こうした大切な庭木に触れながら正しい剪定技術を学び、庭木剪定を楽しみながら自分の庭から潤いある街づくりを行うことを目的とする。 | | | | |
| 日時 | 令和元年6月9日（日）10:00～16:30 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館集会室（中）及び公民館敷地内 | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 赤木 洋行氏（赤木造園事務所：造園施工管理技師、日大生物資源科学部造園・緑地学研究室講師） | | | | |
| 報償額 | 20,000円 （詳細裏面） | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡） | | |
| 対象者 | 庭木剪定に興味・関心のある方 | 定員数 | 15名 | 実績人数 | 14名 |
| 材料費 | なし | 材料費用途 | — （収支報告裏面） | | |
| 概要 | <p>講座は以下のような内容で行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技指導の前に配布資料に基づき剪定技法（枝抜き、切詰め等）と剪定する枝（混み過ぎている枝、垂直方向の枝、平行に出ている枝、枯れた枝等）について説明があった。 2. 剪定する木はその全体を見て、どのような形にするかを決めてから始めることが大切である。今回は、玄関前の「クロガネモチの木」を対象に剪定した。 3. 花木は花が咲き終わった後1か月以内に剪定する。それ以降になると、花芽を切ることになり翌年花が咲かない。「もみじ」は枝を手のひらを広げたような形に剪定すると形が良くなる。また葉を筆り取る方法もある。椿は古葉（濃い緑の葉）を取り除き、若葉を残す方法もある。 4. 実のなる木は不要な実（小さい実）を取り除き、木を疲れさせないことが肝要である。また、肥料を与えるよりも水を十分与えることが重要である。肥料は配合肥料で十分である。 | | | | |
| 成果 | <p>実地指導時や講座終了後の質疑応答等から下記のような成果が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 花木は、花が咲き終わった後1か月以内に剪定し花芽を残すことが大切であることが分かった。 2. 刈込みばさみは、葉を切らずに剪定する場合には刃先を、刈込む場合には刃の真中を、太い枝を切る場合には刃の元を使用すること、また、直線に刈込む場合には刈込みばさみの刃の直線面を葉や枝に、曲線に刈込む場合には刃先の反りの内面を葉や枝に当てることを学んだ。また、ツゲは刈込みばさみで整えた後、剪定ばさみで小枝をすくとより見栄えが良くなることを学んだ。剪定みばさみで枝を切る時は葉を切らずに枝を切ることで美しい剪定ができることを学んだ。刈込む時は、最初に深く刈込むと全体も深く刈込むことになるので、始めの浅く刈込み見栄えを確認することを確認することが大切であることを学んだ。 3. 実のなる木（ミカンやキンカン等）は不要な実を取り除くこと、また肥料よりも水が大切なので水を十分与えること。 4. 今回学んだことを自宅の庭木剪定に活かしたいという参加者が多かった。 5. 定員を超える申込みがあったが、参加は14名であった。（当日1名キャンセルの申出があった） | | | | |
| 自己評価 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">Aa</div> | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講座は実地指導と並行して解説も加えながら進めたが、参加者のアンケートでも概ね肯定的な意見が多かったので今後も同様の形式で実施したい。 2. 講座は1日コースで開催したが、1日コースで良かったようであり、今後も1日コースで企画したい。 3. 座学の時間を少し増やし、剪定する枝の説明をもう少し詳しくするようにしていきたい。 4. 講座への関心は高く参加希望者も多いことから、今後も継続して開催していきたい。 5. 講座は、参加者の怪我・事故もなく、また参加者の協力もあり当初のスケジュール通り終了することができた。 | | | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

令和元年度

資料1-7

| 事業報告書 | | 報告日 | 担当者 | |
|-------------|--|--|---|-----|
| 事業名 | | 山田耕筰の茅ヶ崎のうた | 鈴木 朗 | |
| 事業計画カテゴリ | | 4. 地域交流事業 | | |
| 目標・目的 | | 童謡「あかとんぼ」の作曲で知られる山田耕筰の茅ヶ崎で過ごした6年間の活動の記録を振り返り、その偉大さに触れ、さらに、茅ヶ崎で作られた楽曲をみんなでうたい、本市ゆかりの人物の足跡と功績の理解を深めることを目的とする。 | | |
| 日時 | | 令和元年6月9日(日) 14時～16時 | | |
| 場所・会場 | | 香川公民館講義室 | | |
| 講師・指導・協力者 | | 内山喜代子先生(湘南童謡大衆、元ひばり児童合唱団指導者) 協力スタッフ 牧野れい子氏ほか(合唱サークル茅ヶ崎童謡の会しおさいのメンバー) | | |
| 報償額 | | 10,000円 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | |
| 対象者 | | 一般 | 定員数 | 70名 |
| | | | 実績人数 | 69名 |
| 材料費 | | 材料費用途 | | |
| 概要 | | <ul style="list-style-type: none"> 講師より山田耕筰の功績を説明するとともに、作曲したそれぞれの歌についての時代背景など詳細かつユーモアを交えながら語った。 歌唱指導についても、参加者に分かりやすく、また楽しく歌えるよう丁寧に指導した。 今回用意した曲、約30曲について先生とともに参加者全員で合唱し、ラストの2曲は先生が作詞作曲した赤とんぼ甚句を、スタッフの踊りも交えながら合唱し、最後は赤とんぼを全員起立のうえ合唱した。 途中、休憩をはさみ、その間耕筰のパネル展示を参加者に見ていただいた。 | | |
| 成果 | | <ul style="list-style-type: none"> 事前の申し込みが75名あり、当日は69名の参加だったが、先生の丁寧な指導とユーモラスで楽しい語りもあり、参加者は皆大きな声で楽しく合唱することができていた。 アンケート(52名)回答からも、大いに満足、満足が約83%(それ以外はふつう、無回答)と高く、自由意見欄では、唄うことの楽しさを感じ、また企画してほしいとの声が多かった。 | | |
| 自己評価 | | Ba | | |
| 事業に係る課題・反省点 | | <ul style="list-style-type: none"> テーマが山田耕筰、童謡が中心ということもあり、参加者の中心は高齢者であるのはやむを得ないと考えるものの、もう少し若い世代の方の参加してもらおう工夫が必要ではないかと感じた。 | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

令和元年度

資料1-8

事業報告書

報告日

令和元年6月16日

担当者

志村 光一

| | | | | | |
|-------------|--|-------|--|------|----|
| 事業名 | ミニ音楽祭（市民提案事業） | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 他の公民館では、音楽サークルが出演する音楽祭を行っている館が多いが、香川公民館は公民館まつりのみである。香川公民館利用の音楽サークルの交流と学習成果の還元、音楽サークルのPRの場を提供する。 | | | | |
| 日時 | 6月15日(土) 10時～14時30分 | | | | |
| 場所・会場 | 講義室、和室、保育室、集会室大、集会室中 | | | | |
| 講師・指導・協力者 | ※1 | | | | |
| 報償額 | — (詳細裏面) | 支払い方法 | <input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | |
| 対象者 | 一般 | 定員数 | 80名 (当日先着) | 実績人数 | ※2 |
| 材料費 | — | 材料費用途 | — (収支報告裏面) | | |
| 概要 | 音楽関連の香川公民館利用サークルによる発表参加者とともに楽しめる演目を1つ以上行う。 | | | | |
| 成果 | 当日は雨であったが、平均して30名以上の参加者がいた。普段の学習成果を地域に還元するとともに、普段は顔をあせない音楽サークル同士の交流にもつながった。また各サークルでは、会員の募集や演奏会のPRなども行い、高齢化しているサークルの会員の増強にもつながった。 | | | | |
| 自己評価 | Aa | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | 練習の時間が長く必要なサークルなどは練習時間と場所を考慮する必要がある。 | | | | |

その他

※1
香川八友会、コール香川、ハーモニカクラブ香川、音楽集団歩、コーラスメイト、混声合唱団レント、琴なかま、ミュージックベルサークルみかん

※2
香川八友会：31名
コール香川：35名
ハーモニカクラブ香川：20名
音楽集団歩：30名
コーラスメイト：30名
混声合唱団レント：44名
琴なかま：26名
ミュージックベルサークルみかん：35名
(のべ251名)

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

事業報告書

| | | | |
|-----|-----------|-----|------|
| 報告日 | 令和1年6月26日 | 担当者 | 田端 洋 |
|-----|-----------|-----|------|

| | | | | | |
|-------------|---|-------|---|------|-----|
| 事業名 | 文学講座 ～作家と作品ー芥川龍之介・中島敦・F・カフカの三人の作家は何故に同時代に同じ人生のテーマを考えたのかー～ | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 6. 公民館ふれあい事業 | | | | |
| 目標・目的 | 「文学作品」は、『人間いかに生きるべきか』という疑問に対して、多くに作家が作品を通してその答えを探ろうとした代物であり、それ故に作品の中には、作家が生きた時代や、次にやって来るであろう時代に「どのように立ち向かうか」という、或いは作家が「どう対峙したか」という方法や立場が書き込まれている。このように考えれば、「文学作品」は“宝石”のような価値がある。「文学作品」を通して、こうした宝石の箱を開けてみたくなるような気持ち、またその文学の謎を解くような楽しさを感じてもらうことを目的とする。 | | | | |
| 日時 | 令和元年6月23日（日）13:00～15:00 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 集会室（大） | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 中田 雅敏 氏（八洲学園大学教授） | | | | |
| 報償額 | 20,000円 （詳細裏面） | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡） | | |
| 対象者 | 一般 | 定員数 | 25名 | 実績人数 | 20名 |
| 材料費 | なし | 材料費用途 | — (収支報告裏面) | | |
| 概要 | <ol style="list-style-type: none">1. 中島敦は人間存在の不確かさを感じており、自らの存在をめぐって懐疑する人間像を造型している。（「文字渦」や「狼疾記」等）2. 中島敦の作品には漱石との類縁性があり、その文学テーマは作家としての生の軌跡、苦悩した問題を取り上げ、現実感の喪失を表現している。龍之介にもそれは見てとれる。3. 龍之介やカフカも人間存在の不確かさや不条理を取り上げている。「鼻」や「変身」等。4. 龍之介、中島敦、カフカに共通するのは「才」（才能）であり、「才」故に現実生活で不充足感が生まれ、そこから挫折感を味わうことにある。龍之介、カフカも仕事に挫折。5. 龍之介や中島敦の日本の作家もカフカのような外国の作家も、①世の中の動きや②家庭での育ちによって、同じ人生テーマを考える。 | | | | |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1. 中島敦は一昔前の教科書で「山月記」が取り上げられた作家という程度で、あまり知られていない作家であるが、彼もまた龍之介と同じ人生テーマを考えていた作家であることを知ってもらえる機会となった。またカフカも同じ人生テーマを持った作品を残していることを知り、洋の東西を問わず世の中の動きや家庭での育ち等で同じ人生テーマを考える作家が生まれることを知る機会となった。2. ここで取り上げた3人の作家と同じように「才」故に現実生活で不充足感が生まれ、そこから挫折感を味わうことは多い。それ故「心」と「才」をどのようにコントロールしていくかが大切だということを知る機会にもなった。 | | | | |
| 自己評価 | Aa | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <ol style="list-style-type: none">1. 本題に入る前の導入部分が長くなり、本題テーマの時間が押し寄せになった。講座の進め方について、講師と事前打ち合わせを十分したいと考える。2. 文学講座への関心は高いので、本講座は継続していきたい。ただ、講座のテーマを文学論にするか、作品論にするか、作家論にするかも含め関心と呼ぶテーマ・内容がポイントとなるので、そのことを念頭に企画したいと考える。 | | | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

事業報告書

報告日

令和1年7月2日

担当者

田端 洋

| | | | | | |
|-------------|---|-------|--|------|-----|
| 事業名 | みんなの経済教室 ～はじめての投資信託～ | | | | |
| 事業計画カテゴリ | 3. 社会的要請課題事業 | | | | |
| 目標・目的 | 初めて投資信託を考えている方、もう一度投資信託の知識を整理したいと考えている方に対して、投資信託の仕組み、種類、投資信託のメリット・デメリット、選び方等とリスク対策の方法を解説することを目的とする。 | | | | |
| 日時 | 令和元年6月30日(日) 13:00～15:00 | | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 集会室(大) | | | | |
| 講師・指導・協力者 | 山木戸 啓治 氏(一般社団法人 投資信託協会 登録講師) | | | | |
| 報償額 | なし(投資信託協会が負担する) (詳細裏面) | 支払い方法 | <input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡) | | |
| 対象者 | 一般 | 定員数 | 25名 | 実績人数 | 14名 |
| 材料費 | なし | 材料費用途 | — (収支報告裏面) | | |
| 概要 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資信託の仕組み、メリット・デメリット、種類、リスク等の説明。 2. 上場投資信託(ETF)、不動産投資信託(REIT)も取り上げ、その仕組み、特徴等を説明。 3. 投資信託を購入する際には、「投資信託説明書(交付目論見書)」で当該投資信託の内容をチェックすること、購入後は「運用報告書」で運用状況をチェックすることの重要性を説明。 4. 投資信託を購入する際にかかる費用や購入後に間接的に負担する費用を確認する必要性を説明。 5. 投資信託を選ぶ際のポイントについて説明。 6. 投資信託のリスクを軽減する買い方として有効な「ドル・コスト平均法」の説明。 7. 投資信託が対象の非課税制度(一般NISA、つみたてNISA、ジュニアNISA、iDeCo)の説明。 (NISA:少額投資非課税制度、iDeCo:個人型確定拠出年金制度) 8. 金融商品投資では必ず儲かることはまずないので、正しい知識を持つことの必要性を説明。 | | | | |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 投資信託という金融商品の仕組み、種類、リスク、並びに投資信託の内容によって負担する費用が異なることを知る機会となった。 2. 投資信託の購入にあたっては、「投資信託説明書」を必ず読み、どういうものに投資するかどういリスクがあるかをチェックすることが重要であることを知る機会となった。また、投資信託購入後は、「運用報告書」をチェックし運用成果や運用方針を確認することも重要であることを知る機会となった。 3. 投資信託が対象の非課税制度を利用することで、節税しながら資産形成できるということを知る機会となった。 4. 投資信託を始め金融商品への投資で必ず儲かるということはずあり得ないので、正しい金融商品知識を身に付けることが肝要であることを理解してもらえた。 5. 申込者は15名で、参加は14名であった。 | | | | |
| 自己評価 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">Ca</div> | | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | <ol style="list-style-type: none"> 1. こうした経済講座に関心を持っている方も少なからずおられることから、これからも継続して企画していきたい。 2. 今回は投資信託の基礎であったが、次回以降はもう少しレベルを上げた内容で企画したい。 | | | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

令和元年度

資料1-11

事業報告書

| | | | |
|-----|----------|-----|------|
| 報告日 | 令和元年6月1日 | 担当者 | 志村光一 |
|-----|----------|-----|------|

| | | | | |
|-------------|--|-------|---|--------------------------|
| 事業名 | キッズエアロ（体操教室）（子ども向け体育の講座） | | | |
| 事業計画カテゴリ | 1. 子ども事業 | | | |
| 目標・目的 | 高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。 | | | |
| 日時 | 6月1日（土）①9時30分～10時15分 ②10時45分～11時30分 | | | |
| 場所・会場 | 香川公民館 講義室 | | | |
| 講師・指導・協力者 | （一社）アステム湘南スポーツソサエティ | | | |
| 報償額 | ¥5,000 （詳細裏面） | 支払い方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡） | |
| 対象者 | ①②ともに未就学児の親子 | 定員数 | ①②ともに10組 | 実績人数 ①7組18名 ②9組23名 |
| 材料費 | — | 材料費用途 | — （収支報告裏面） | |
| 概要 | 体操（エアロビクス）を通して、からだの動かし方を学ぶ。 | | | |
| 成果 | アンケートでは、全員が満足したと回答した。親も子も両方が体操できるプログラムとなっており、また家庭でもできるものであり、家庭教育にも役立ったといえる。昨年に引き続きリピーターも多く、継続的に公民館に足を運ぶしかけができています。 | | | |
| 自己評価 | Ba | | | |
| 事業に係る課題・反省点 | キッズデーと開催日を同日にし、本講座修了後にはキッズデーの各種ブースに行くよう促したが、午後をはさんでしまうと連続で参加する親子は少なくなった。 | | | |

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要